

豊かな縄文文化を再確認

第2回北秋田市縄文シンポジウム

森吉山ダム建設に伴い、平成7年から調査が進められている小又川流域の縄文遺跡・遺物について語り合う「第2回北秋田市縄文シンポジウム」が3月10日、市文化会館で開かれ、縄文文化の研究者や発掘担当者によるパネルディスカッションで調査成果の紹介と意見交換が行われました。



▲小又川流域の縄文遺跡と当時人々の暮らしや文化などについて語り合った第2回縄文シンポジウム

小又川流域の縄文遺跡・遺物を考察
 の地で育まれた豊かな文化を紹介することが目的。
 シンポジウムは、「出土品からみた小又川の縄文時代」「遺跡からみた小又川の縄文時代」「小又川一万年の暮らし」をそれぞれテーマとした3部構成。パネルディスカッションは独立行政法人奈良文化財研究所の岡村道雄企画調整部長をコーディネーターとして、研究者、発掘調査にあたった秋田県埋蔵文化財センター北調査課と市教育委員会の担当職員がパネラーとして参加し、報告と討論を行いました。

ストリー性のある文様が描かれた「狩猟文土器」

パネラーの一人である、県埋蔵文化財センター北調査課の宇田川浩一文化財主事が、縄文時代後期の遺跡・日廻倍B遺跡から出土した「狩猟文土器」について報告。この土器は、側面に狩をする人と動物、弓矢やわな（落とし穴）など、ストリー性のある文様が描かれ、内側が三つに分かれているなど、出土品の中でもたいへんめずらしい土器。



狩猟文土器

また同課の山田祐子文化財主事は、文様の平面図と上から見た土器の位置関係を投影機で説明しながら、「狩人のすぐ隣に弓矢が並んでいないなど、描かれているものの位置からは『狩猟物語』を整然と説明できない3つに仕切られている部分とその外側の文様が、対応関係にあるのでは」と、自説を述べていました。

また第3部では、多くの遺跡で弥生時代(約2千3百年前)の住居跡が見つかっておらず、以後、一部を除き住居跡が見つかるのは平安時代の遺跡であることなどに言及。この中で、東京大学大学院の辻教授は、「秋田の山林は、すでに縄文時代の後期からブナを中心とする落葉・広葉樹林からスギに植生が変わりつつあった。そのような自然環境の変化による影響もあつたと思うが、米作りのために離れたわけではなく、なんらかの形で山林との関わりを持ちながら、生活の仕方を変えて生活が続いたのでは」と、推測していました。

会場の参加者から「新潟の遺跡群との類似性は」「当時の植物を使った織物などの遺物は残っているか」などの質問が出され、パネラーとの間で意見交換も行い、小又川流域に暮らした縄文人の生活を考察しました。

特選食材を使った弁当でもてなしを

「国体弁当」試作品をお披露目し北秋田特選食材購入会

市及び上小阿仁村の飲食店関係者でつくる「北秋田特選食材購入会(中嶋隆史会長)」が秋田わか杉国体(開催期間▽9月29日―10月11日)での提供に向けて取り組んでいる通称「国体弁当」のお披露目会が3月22日、市内のホテルで開かれ、関係者らが、比内地鶏などを使った試作弁当を試食しました。

本市で開催される各競技に参加する選手・役員やボランティアなど関係者の総数は約3千人以上。大会期間中は1万2千個以上の弁当が必要とされています。

「国体弁当」は、比内地鶏や山のいもなどの北秋田地域特産の食材を使い、わか杉国体に参加する選手・役員を「食」の面からも応援しようとして、同会の会員が研究を重ねていたもので、4種類を試作しました。

お披露目会には、県・市、市内各商工会及び農林業関係者、同会の母体となった「うめーもん創作協議会」の会員ら約100人が出席。今回の試作品は、同会の17の会員が4つのグループに分かれ、それぞれの持ち味を生かした料理を

提供、また、比内地鶏を使った調理品を最低一品入れることを申し合わせて作られました。

比内地鶏の揚げ物や煮物、和え物の山菜などたくさんのおかずでボリュームもたっぷり。また、比内地鶏の炊き込みごはんがメインになったものなど、県外から訪れた方たちに喜んでもらえそうな弁当ばかりでした。

同会では、この日試食した参加者の意見を参考にしながら改良を重ね、国体本番での提供に備えます。



▲4種類が試作された「国体弁当」

さよなら竜森保育園・鷹巣北幼稚園

市立幼稚園は新たに「たかのす幼稚園」としてスタート

少子化にともなう園児の減少などで廃止となる竜森保育園(園児3人、金田悦子園長)と鷹巣北幼稚園(園児12人、工藤英俊園長)で3月下旬最後の修了式・卒園式と閉園式が行われ、地域の乳幼児保育・幼児教育の役割を担ってきたそれぞれの施設の歴史を閉じました。

竜森保育園は、昭和43年に発足した七日市の竜森簡易保育所が前身。当時は鷹巣南中学校と統合し、廃校となった旧竜森中学校の校舎の一部を使用していました。同48年4月、園舎を建設し「竜森へき地保育所」としてスタート、これまで34年間で179人の修了生を送り出しました。25日に行われた卒園式では最後の卒園児となった梅原琢也君に金田園長が保育証書を授与した後、梅原君と、他の保育園に入園する園児の2人に祝福とはなむけのことばを贈りました。

鷹巣北幼稚園は昭和53年、旧鷹巣町3番目の幼稚園として綴子・糠沢に創立。29年間で589人の卒園児を送り出しました。

同園は、鷹巣西幼稚園と統合し、新たに「たかのす幼稚園(園舎Ⅱ西幼稚園)」として再出発することになったことに伴い、閉園となったもので、3月20日、最後の卒園式が行われ8人の園児が巣立ちました。

たかのす幼稚園(工藤英俊園長)の入園式は5日行われ、4歳児5人が入園、園児13人で新しい歴史のスタートを切りました。



◀29年にわたる地域での幼児教育の務めを終えた鷹巣北幼稚園

34年の歴史を閉じた竜森保育園(最後の卒園式で)▶

